

普及活動の成果

課題名	省力化による 露地野菜産地の拡大	振興局名
活動対象	JAながさき西海 ブロッコリー連絡協議会	実施期間

【対象の概要】

- JAながさき西海管内のブロッコリー生産者 140名（うち認定農業者
- 構成地区および部会は以下のとおり（栽培面積順）

地区	部会名	部会員 数	栽培面積 (a)	面積割合 (%)
連絡協議会（合計）		140	59.6	100
松浦	松浦蔬菜園芸部会 ブロッコリー専門部	44	30.5	51.2
小値賀	小値賀園芸部会	25	10.4	17.4
北松	北松 ブロッコリー部会	17	6.6	11.1
させば北部	北部 ブロッコリー部会	22	5.4	9.1
平戸	生月平戸 ブロッコリー部会	21	4.2	7.0
南部	南部 ブロッコリー研究会	9	2.3	3.9
宇久	宇久園芸部会	2	0.2	0.3

【課題設定の背景】

- 個選であるため、産地で青果物の品質の統一ができていない。出荷形松浦地区の「発砲スチロール容器＋氷詰め」とその他の地区の「ダンボールあり、ダンボールでは十分な単価がとれていない。
- 移植・収穫作業だけでなく出荷・調整にも労力がかかっている。
- 追肥の遅れや生育期の干ばつによる肥効不足で、青果物の品質が低下
- 葉たばこ廃作からの品目転換で1ha以上作付けする農家も出てきてい1戸あたりの栽培面積は少ない。
- 水田では排水不良による湿害等で単収が低い。

【活動目標】

◎ 成果目標：栽培面積60a（現況54a、H32目標70a）

○ 活動目標：

内容	活動指標	年度目標
共同選果体制の検討	検討回数	5
省力化技術推進	推進回数	5
水田で単収を確保する栽培技術の実証	実証圃数	1
作付け推進	作付け推進回数	6
	栽培管理指導回数	10

★ 活動のねらい

1. 共同選果体制検討・確立により出荷調整の労力低減による規模による産地ブランド力の向上を図る。
2. 省力化技術（移植機導入、基肥一発施用）の推進により作付面積
3. 水田での栽培技術（耐湿性品種の導入、排水対策）の実証を行うと単収の向上を図る。
4. 経営モデルを活用した作付け推進を行い、新規栽培者の確保を図る。

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

関係機関が産地の現状と課題・対策について情報共有による共通認識それぞれの役割（下記）を連携しながら全うし、課題解決を行う。

JA：組織（部会）活動（講習会、作付け推進など）の企画・運営
また、生産者や部会に対して生産指導および集出荷を行う。

振興局：県内の産業振興および地域活性化のため、長期視点に立って課題解決のための活動の提案・指導を直接生産者や関係機関に
また、補助事業の推進や県の予算で実施する展示圃の設置を

市町：市内の産業振興および地域活性化のため、産地育成のため
課題解決のための対策（事業化等）を行う。

【活動経過】（活動体制、指導・支援の経過と手法等）

（1）共同選果体制の検討

- ・先の総合集出荷施設の建設と共同選果(以下共選)を見据え、管内の出した。
- ・生産者振興大会（管内全系統生産者対象）において、JA島原雲仙の共選（規模拡大）のモデルケースの紹介により生産者の共選の実施に対する（3/2）。

また、生産者振興大会時に共選の実施に関するアンケートを実施した結果共選実施希望は8%、条件付き賛成（共選の経費・場所次第）は39%、家庭選果を希望する生産者は小値賀、鷹島地区を中心に47%であった

（2）省力化の推進

- ・松浦市鷹島地区での移植機2台の導入支援を行った。
- ・基肥一発施肥展示圃を3箇所（佐世保1、松浦2）設置し効果の検証を行った。

（3）水田で単収を確保する栽培技術の実証

- ・水田における単収向上および作付け推進の基礎資料とするため、湿害を組み合わせた展示圃を設置した(松浦)。

（4）作付推進

- ・県北地区における主な品目や篤農家の経営を参考にブロッコリー推進担当と協議して作成した。
- ・各地区において秋作及び春作の作付け推進を行った。

普及活動の成果

【普及活動の成果】

- （1）小値賀を除く地区で出荷形態が発泡スチロール＋氷詰めに統一された。
- （2）鷹島地区に移植機2台を今年度中に導入見込みである（新構造改修）。
- （3）耐湿性に関して品種間差は認められず、20cm以上の高畦が湿害とが示唆された。
- （4）作付け推進のための振興局版営農類型を作成した（JAとは協議中）。

【対象の声】

- ・会合の折に資料等を用いて指導してもらい助かっている。他地域の情報提供をお願いしたい。(松浦)

実現までの願いをしっかりと活用。

- ・現地検討会、栽培講習会では資料やスライドを活用してもらって助か
- ・重点項目等についても具体的内容を取上げてもらっているし、要請の
てもらっている（南部）。

【今後の課題】

- （1）共同選果をどこでどの範囲で行うかアンケート結果をもとにシユ
行い、
実現に向けた検討を行う。
- （2）鷹島地区において移植機導入を活かした作付け推進を行う。基肥
る。
- （3）水田における作付けでは20cm以上の高畦栽培を推奨し、単収向
- （4）今年度は営農類型を活用した作付け推進ができなかったことから
営農類型を基にJAと協議の上完成版を作成し、営農類型を活か
現在振興局で推進している法人化・集落営農の品目の1つとして

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

発表・参考資料

様式6 (左)

県北振興局

H28.4.1.~H29.3.31.

65名)

※JA (H28) 数値

その他
葉たばこ廃作後の品目転換 で面積増加 (特に鷹島町)
葉たばこ廃作後の品目転換 で面積増加

態が統一されておらず、
「バール箱+氷詰め」の2種

する場合がある。
いるが、平均は0.3haと

備考
移植機導入・基肥一発施肥
高畦+耐湿性品種

広大と青果物の均質化に

責の増加を図る。
ハ、水田への作付け推進

よび大規模農家の育成を

荷形態の統一を検討し

共選による専作農家の育成
意識醸成を行った

果、

(回答数51)。

を行った。

害に強い品種と畦の高さを

目的のための営農類型を経営

様式6 (右)

られた。
改善加速化支援事業活

対策として有効であるこ

未)。

情報など参考にするため情

いている（北中）。
ある場合にはよく対応し

ミレーション及び試算を

一発施用技術は普及を図

上を図る。

、来年度は今年度作成の
した作付け推進を行う。

推進し、栽培面積の拡大